

令和元年度（2019 年度）東京工業大学技術経営専門職学位課程

教程連携協議会議事概要議事録

日 時 2019 年 9 月 30 日（月）10:00～12:00

場 所 キャンパス・イノベーションセンター8 階 812 号室

出席者 後藤美香（主査）、藤村修三、井村順一、飯塚久夫、荒金久美、作中秀行、岸本喜久夫の各委員
事務：有山環境・社会理工学院業務推進課長、田町環境・社会理工学院事務グループ

議 題

1. 概要説明

後藤主査より、資料 1、資料 3 及び資料 4 により、技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会の設置概要、委員の構成について概要説明がなされた。また、資料 2-1 及び資料 2-2 に基づき、技術経営専門職学位課程に関する概要説明がなされた。

2. 意見交換

後藤主査からの概要説明を受け、各委員より、以下のような意見が出された。

- 学生の就学を取り巻く環境について
- イノベーションについて
- MOT の位置づけ、課題について
- カリキュラムについて

配付資料

1. 専門職大学及び専門職短期大学の制度化等に係る学校教育法の一部を改正する法律等の公布について（通知）
- 2-1. 2019 年学修案内
- 2-2. 入学試験説明会資料（抜粋）
3. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程
4. 技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会委員一覧

参考資料

1. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程専門職大学及び専門職短期大学の制度化等に係る学校教育法の一部を改正する法律等の公布について（通知）

以上

令和二年度（2020年度）東京工業大学技術経営専門職学位課程
教育課程連携協議会議事録

日 時 2021年2月5日（金）13：00～15：00

場 所 オンライン開催

出席者 橋本正洋（主査）、藤村修三、井村順一、飯塚久夫、荒金久美、作中秀行、岸本喜久雄の各委員
事務：有山環境・社会理工学院業務推進課長、田町環境・社会理工学院事務グループ

協議会の冒頭において、橋本主査を議長とすることを全会一致で承認した。下記の議事に沿って協議した。

1. 前回議事録の確認

前回議事概要（案、資料2）を一部修正の上、全会一致で承認した。

2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程の教育研究の現況について

橋本主査より資料3、4、5及び東工大技術経営専門職学位課程認証評価報告書（閲覧のみ）に基づき、東京工業大学技術経営専門職学位課程の教育研究の現況について説明がなされた。その内容をもとに、以下に示す議論が行われた。

- ・コロナ禍、ポストコロナ対応
- ・リカレント教育
- ・日本企業の経営（DX対応）
- ・学内外への広報
- ・その他

本議題を総括するに、次回の本協議会において、今回提起された上記の論点についての進捗状況と、新たにアクションプランについて報告・提案することを全会一致で確認した。

配布資料

1. 議題表
2. 令和元年度教育課程連携協議会議事録案
3. 新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応方針（令和3年1月8日版）
4. 技術経営専門職学位課程 学修課程
5. 技術経営専門職学位課程の現状について
6. 技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会委員名簿

参考資料

1. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程専門職大学及び専門職短期大学の制度化等に係る学校教育法の一部を改正する法律等の公布について（通知）
2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程

以上

令和三年度（2021年度）東京工業大学技術経営専門職学位課程
教育課程連携協議会議事録

日 時 2022年3月4日（金）10：00～12：00

場 所 オンライン開催

出席者 辻本将晴（主査）、日高一義、井村順一、阿部剛士、荒金久美、作中秀行、岸本喜久雄の各委員
事務：秋友環境・社会理工学院業務推進課長、田町環境・社会理工学院事務グループ

協議会の冒頭において、辻本主査を議長とすることを全会一致で承認した。下記の議事に沿って協議した。

1. 前回議事録の確認

前回議事概要（案）を全会一致で承認した。

2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程の教育研究の現況について

辻本主査より資料3及び4に基づき、東京工業大学経営専門職学位課程の教育研究の現況について説明がなされた。その内容をもとに、以下に示す議論が行われた。

- ・入学試験
- ・受験科目
- ・本学の専門職学位課程の教員構成について

3. 技術経営専門職学位課程の将来構想

辻本主査より資料5に基づき、技術経営専門職学位課程の将来構想について説明がなされた。その内容をもとに、以下に示す議論が行われた。

- ・スタートアップ支援について
- ・イノベーションデザイン機構について
- ・その他

本議題を総括するに、次回の本協議会において、今回提起された上記の論点についての進捗状況と、新たなアクションプランについて報告・提案することを全会一致で承認した。

配布資料

1. 議題表
2. 令和二年度教育課程連携協議会議事録案
3. 技術経営専門職学位課程 学修課程
4. 技術経営専門職学位課程の現状について
5. 将来構想（技術経営）
6. 技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会委員名簿

参考資料

1. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程専門職大学及び専門職短期大学の制度化等に係る学校教育法の一部を改正する法律等の公布について（通知）
2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程

以上

令和四年度（2022年度）東京工業大学技術経営専門職学位課程
教育課程連携協議会議事録

日 時 2023年3月15日（金）13：00～15：00

場 所 オンライン開催

出席者 辻本将晴（主査）、日高一義、井村順一、阿部剛士、荒金久美、作中秀行、岸本喜久雄の各委員
事務：秋友環境・社会理工学院業務推進課長、田町環境・社会理工学院事務グループ

1. 前回議事録の確認

前回議事概要（案）を全会一致で承認した。

2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程の教育研究の現況について

辻本主査より資料3及び4に基づき、東京工業大学経営専門職学位課程の教育研究の現況について説明がなされた。その内容をもとに、以下に示す意見交換が行われた。

- ・入学者の確保等
- ・受験科目
- ・本学の専門職学位課程の教員構成について

3. 技術経営専門職学位課程の将来構想

辻本主査より資料5に基づき、技術経営専門職学位課程の将来構想について説明がなされた。その内容をもとに、以下に示す議論が行われた。

- ・スタートアップ支援について
- ・イノベーションデザイン機構について
- ・その他

本議題を総括するに、次回の本協議会において、今回提起された上記の論点についての進捗状況と、新たなアクションプランについて報告・提案することを全会一致で承認した。

配布資料

1. 議題表
2. 令和三年度教育課程連携協議会議事録案
3. 技術経営専門職学位課程 学修課程
4. 技術経営専門職学位課程の現状について
5. 将来構想（技術経営）
6. 技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会委員名簿

参考資料

1. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程専門職大学及び専門職短期大学の制度化等に係る学校教育法の一部を改正する法律等の公布について（通知）
2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程

以上

令和5年度東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会
議事録

日 時 令和6年3月19日(火) 10:00~12:00
場 所 オンライン開催

出席者 仙石慎太郎(主査)、後藤美香、神田学、阿部剛士、荒金久美、作中秀行、岸本喜久雄の各委員
事務：内田環境・社会理工学院業務推進課長、田町環境・社会理工学院事務グループ

1. 前回議事録の確認

前回議事録(案)を確認し、具体的な意見・論点等を追記のうえ、会議後に各委員に確認依頼をすることとした。

2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程 教育の概況について

仙石主査より資料4に基づき、東京工業大学(東工大)技術経営専門職学位課程(MOT)の教育の概況について説明があり、以下に示す意見交換が行われた。

○本課程の現況

- ・ イノベーションをデザインする、という東工大のMOTらしさをブランド化すれば、他のMOTと差別化が図れるのではないか。
- ・ 学生にとっては、国際政治や国際経済が重要。特に行動経済学が重視されてきている。将来的に講義の設置を検討してはどうか。
- ・ 教育の幅を広げようというときに、今後どのようにして産業界との連携を図っていくか、授業科目の開発を行っていくか、新しい授業を進めるか等がポイントとなる。そのようなときは、大学からのサポートを得られることが重要である。

○本学院・本課程の今後の展望

- ・ ビジネススクールについては、既に様々なビジネススクールができていの中で、東工大で培われてきた教育研究がうまく活用されていくような視点を持つビジネススクールといった新規性を出すよい。
- ・ 大学が企業との組織的連携としての産学連携を進める際に、MOTを組織的に組み込むことで、MOTの教育研究の厚みが増える。

- ・ 専門職学位課程もしくはビジネススクールで、人材育成の点から、外国人の取り込みを強化すべきではないか。現時点で日本語能力の高い外国人の在籍が多いこともあり、修了後も日本に定着するような、欧米とは異なる道を示せることもあるのではないか。

配付資料

1. 議題表
2. 令和4年度教育課程連携協議会議事録（案）
3. 2023年度技術経営専門職学位課程 学修課程
4. 技術経営専門職学位課程 教育の概況
5. 技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会委員名簿

参考資料

1. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程専門職大学及び専門職短期大学の制度化等に係る学校教育法の一部を改正する法律等の公布について（抜粋）
2. 東京工業大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会規程

以 上

令和6年度東京科学大学技術経営専門職学位課程教育課程連携協議会
議事録

日 時 令和7年3月18日(火)
10:00~11:45
場 所 オンライン開催

出席者 笹原和俊(主査)、後藤美香、阿部剛士、荒金久美、作中秀行、岸本喜久雄の各委員(欠席:蒲池利章委員)

事務:内田環境・社会理工学院業務推進課長、田町事務グループ

1. 前回議事録の確認

前回議事録(案)(資料2)を確認し、意見・修正があれば担当事務にご連絡いただくこととした。

2. 技術経営専門職学位課程 教育等の概況について

笹原主査より資料4に基づき、技術経営専門職学位課程の教育等の概況について説明があり、以下に示す意見交換が行われた。

(意見交換・質疑応答)

デュアルディグリープログラムについて:

- ・ このプログラムの修了生とネットワークを持ち、例えばゲスト講師として今の活躍をフィードバックしてもらおうと、実践的な厚みのある授業ができるのではないかと。

国際化について:

- ・ 日本の経営を研究している外国人研究者という存在がある。こうした研究者をゲスト講師にするという方法もあるのではないかと。

カリキュラムについて:

- ・ 日本はマーケティングが弱い。カリキュラムの中に、もっと広義のマーケティングの授業があるとよい。価格戦略とか価格支配力戦略などは企業が人材を送り込みたい内容。無形資産の三本柱であるヒューマンキャピタル、知的財産、ブランドのうちブランドの分野も講義対象として企業を引き付ける。
- ・ 社会人学生の割合が多いが、p17の「想定されるキャリア」の図を見ると、一般学生がこのプログラムを卒業して社会に出ていくイメージが中心となっている印象。スタ

ートアップするだけが全てのキャリアではなく、社会人学生が多くを占めるプログラムならば、彼らがみんな会社を辞めてスタートアップすることを目指すプログラムでもないはず。リカレント教育・リスキリングの拠点であるということアピールし、現在勤めている企業に新たな貢献ができる能力を開発することができるプログラムである点を強調すると外部にアピールができ、また、特徴がより出るのではないか。

→修了者特に社会人学生であった方へのアンケートや、同窓会組織BMOTとの連携を通じて、修了生が仕事においてどのように質的に変わったか等を聞くことを考えている。それが新たにMOTで学びたい方の参考になるように、同時にプログラムの成果のアピールになるものとして、丁寧に調査をした上で、可視化を試みたい。

- ・ 「みんなが起業家になればいいというわけではない」という発言は、本当にその通り。一方で、経営者の視点を持った人間、人材を育てていくのは普通の企業にとって、特に中小企業にはとても難しい。MOT修了生がその点でしっかりと活躍できるのであれば、本当に素晴らしい。先生方にはそうした会社の実態や、世の中の問題を認識いただきつつ、企業サイドや実務者の話をカリキュラムにうまく取り込んでほしい。
- ・ 統合があったが、旧東工大がリベラルアーツの授業も取り入れていたといった特徴が消されないように、上手にプログラムを組んでいただきたい。
- ・ MOTの修了生には「鳥の目・虫の目・魚の目・コウモリの目」この四つの目を持ってほしい。特に大事なのが、「魚の目」潮流を読むこと。将来を予測するのは難しいが、逆に将来どうあるべきかというのを考える時期にきている。

教授陣について：

- ・ 実務面、マーケティング・マネタイズ・ブランディング等の経験を踏まえていらっしゃる方を増やしていかないと大変ではないか。
- ・ 国際関係・安全保障担当教員の退職が予定されていることに関連して、国際事業をしたいという若い人に基礎知識が欠けている。ファイナンス、マーケティング、安全保障等、基礎知識と、実体験あるいは疑似体験を身につけていかないと、これからの人たちには、本当に大変な時代になるのではと懸念する。このため、MOTでの講義でも力を入れてやっていただきたい。ファイナンス・法律・技術の三つの要素について、教育できるようにMOTを成長させていけるとよい。

→今後の講義の検討・必修科目の指導教員の確保をしたい。

医歯学系（旧医科歯科大学）との連携について：

- ・ 医歯学系は、MOTに関してどの程度興味を持っている様子か？

→これから DD プログラムなどを通じて、積極的に働きかけてアピールして行く段階。ただし、統合したことによって、既にいい影響が出ている例があり、いい方向に向かう可能性を実感している。

- ・ 社会人学生の中に、医学系の現場の方が入ってきて、経営的な知識をMOTで補完し、広くグローバルに通用する医療現場での働きができる、新しい開発ができるといった、病院経営に携わる人たちがこのプログラムを受けてくれるような魅力があるとよいのではないか。